

筆山

第52号 / 2012年 7月

土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報

編集人/ 永森 裕子 (44回)

発行所：〒100-8222東京都千代田区丸の内2-6-1 丸の内パークビルディング森・濱田・松本法律事務所
弁護士 市川直介気付 (TEL)03-5223-7719 (FAX)03-5223-7619 (E-mail)naosuke.ichikawa@mhmjapan.com
関東支部ホームページ：http://www.tosako-kanto.org/



「写真」平成24年5月に開業したスカイツリーを、駒形堂を背にして隅田川西岸から撮影した。写真左端高速道路下に見える橋は吾妻橋。左下合成は赤く塗られた駒形堂。

「左図」百六十年前の安政年間の安藤広重による浮世絵版画「名所江戸百景」より「駒形堂吾妻橋」で、同じ場所を鳥瞰図で描いている。左下に駒形堂が見える。駒形堂の屋根のところは小さく吾妻橋が見える。見上げれば、一天俄かにかき曇り、不如帰が一声鋭く鳴いて横切り、夕立が来た。



江戸百景 (巻)

平成24年5月22日に東京スカイツリーが開業した。初日は20万人の見物客があったという。この日は強風で、用心のため時々エレベータを止めざるを得なかったというおまけ話がついていた。

翌23日は好天気で、スカイツリーを撮影するため浅草へ行った。本所へ行かずに何故隅田川の対岸の浅草へ行ったかという、上図に挙げた広重の「駒形堂吾妻橋」の視点からスカイツリーを見てみたかったのだ。

広重の版画は百六十年前の幕末安政年間のもの。当然だが、これほど変わり果てた風景はない。変わらないのは駒形堂の屋根の形と墨田の流れだけ。

駒形堂には馬頭観音が祀ってある。江戸初期の奥州街道(日光街道)は駒形堂の西側を通り、浅草馬道から今戸の方に抜けていた。(江戸後期には千住の方を通ることになる)。

江戸後期、吉原通いの遊び客は柳橋あたりから猪牙舟(ちよきぶね)もしくは屋根舟に乗って、浅草御蔵の首尾の松に今夜の首尾が良いように願をかけ、駒形堂の前を過ぎ、山谷堀の入り口で舟を降りて、後は陸路(日本堤)を徒歩で吉原へ向かった。帰りはその逆で江戸へ戻る。

江戸初期の話だが、仙台公伊達綱宗の愛妓、吉原三浦屋の二代目高尾太夫(万治高尾)が、帰りゆく綱宗公に手紙を書いて、文使いに追い駆け届けさせた。『……御館の御首尾はいかにと、忘れねばこそ思ひ出さず候、かしこ君はいま駒形あたりほととぎす』という手紙が綱宗公を益々燃え上がらせたという伝説がある。遊女の手紙は客を自分に繋ぎ留める手練手管なのだが、しかし、これは名文・名句ではある。(41回 西岡 恒憲)

2012 関東支部総会 & 懇親会

6月2日 霞ヶ関・東海大学校友会館



左：泉谷良彦前支部長（29回）から
右：森 郁夫新支部長（41回）に **バトンタッチ**

岡内啓明さん(42回)が
「土佐の活力」と題し
て講演。



母校の近況を語る山本芳夫校長（40回）



2の回が担当しました。





支部長を仰せつかりました。

41回生 森 郁夫

みなさん、今日は。

この度関東支部支部長を仰せつかった森です。泉谷大先輩の後を受け、大役ですが皆さんのお役に立てるように頑張りたいと思います。同窓会や何かか会で集まって騒ぐのは好きですが、元来気がよく性格では無く、世話役としては全くむいていないと自覚しておりますが、役員の方のご支援、41回生みんなの支援を頂きながら勤めて行きたいと思っております。

今年で42年間勤めた会社員生活にピリオドを打ちました。相談役としては残りますが、第一線からは退く事になります。所謂会社人間の典型でしたので、これから何をすれば良いのか困惑している所です。社長になるまでは長期連休によく出掛けていたカミサンとの世界遺産巡りをまた始めようかと考えています。自然遺産にしる、文化遺産にしる、自然の偉大さ・素晴らしさや、人間の偉大さ・素晴らしさに触

れるまたとない機会です。会社勤めの頃、恨めしく思っていた、シーズンオフの価格で楽しむ事が出来ますし。そう言えばゴルフもウイークディ価格でプレイ出来る訳ですね。若い頃のめり込んでいた山登りも行きたいですねえ。但し脊柱管狭窄症で痛めつけられた腰の復活が必要です。何だか自分が遊ぶ事だけ考えてしまっていて、これからは高知の為に何か出来る事をとか、土佐校の為に力を尽くしたいとか言う、高尚な考えや抱負がちっとも浮かばないのが申し訳なく思います。

仕事をしている時に何時も感じていましたが、世界は常に猛烈に変化をしています。従って生き残る為には、その変化に何ともしがみつ、新知識を吸収し対処していく、あるいは変化を先取りし常に先手を打っていく事が求められます。会社にいる間は否応なく対応していたのですが、これからは世の中の変化を感じる事すら難しそうです。何が起きているのが私のアンテナ迄届かなくなりそうです。『老いては子に從え』。若い人達色々な意見を出しあって、同窓会を盛り上げて欲しい

と思います。同窓会が決して年寄りの懐かしさだけになってはいけないと思います。現実に色々な発展に繋がる組織、ビジネスに繋がる組織、志を同じくする者の組織にしたいものです。その為にニコニコと若いみんなの意見を聞き、何か少しでも力になれることが有れば、少しお手伝い出来ればと思います。



高知の自然が好きです。高知の人間が好きです。高知は全てが暖かい。土佐弁を聞くだけでホッとします。そういう心を大切にしながら、世界中に土佐

のネットワークが広がればと思います。

〔経歴〕高知市出身 江の口小学校、土佐中、土佐高、早稲田大学理工(工経) 富士重工業(昭和45年入社) 平成18年社長、平成23年会長、平成24年相談役



同窓会に
初めて参加して

87回生 和泉侑吾

支部同窓会には幅広い年代の卒業生が来られていて、少し緊張しました。講演では高知の良さを見つけれ、高知が全国からどう見られているかを知ることができました。懇親会ではお酒を交わすことはできませんでしたが、社会作法を学ぶことができ、いろいろな分野、業界で活躍されている先輩がたから今後の糧になるような話が聞け、つながりを持つことができました。今後も参加し、積極的に自分をアピールしていきたいと思っております。また、久しぶりのカツオのたたきなど高知のものを食べる事ができ、良かったです。最後は土佐の校歌を全員で歌い、あらためて土佐の良い学校だと思えました。

関東支部活動報告

事務局 二宮 潔(49回)

支部総会・懇親会

6月2日(土)、大学1年生の87回生35名を招待し、世話役当番2の回生の献身的な協力により活気溢れる充実した関東支部総会・懇親会だった(参加者250名) 2、4頁参照

役員改選

4期8年の長きに亘りご尽力頂いた泉谷良彦支部長(29回)のご勇退と、森郁夫新支部長(41回)へのバトンタッチ。「プリウスよりスバルをよろしく!」と泉谷さんから森さんへの激励に会場が沸いた。片や新支部長曰く、「ベテラン2名(幹事長・事務局長)に新役員の私を含めた若者たちで頑張りますので、スバルともどもよろしくお願います!」と爽やかなエール交換だった。

フェイสบックなど

ほかに「関東支部フェイสบック」の立ち上げ 8年ぶりの「関東支部名簿」発行の検討 5年間に亘る新校舎建築募金協力の目標達成(関東支部目標30万円に対し51万円、目標総額4億円に対し4億13百万円) 9月15日の「はちきん会」(於:日本記者クラブ、講演:村木厚子さん(49回))

のお知らせ 大ベテランの西岡編集長(41回)に替わって2年限定で就任された永森裕子「筆山」新編集長(44回)の所信表明 今冬予定の「学生・若手社会人交流会」(於:東大駒場キャンパス)のお知らせなどに加え、ご来賓の山本芳夫校長(40回)より募金協力への感謝のお言葉とともに、進学状況ほか文武両道に堅調な心強い学事報告を頂いた。

総会終了後、5月28日に亡くなられた松浦勲元校長(13回・92歳)を偲び、DVD(85年関東支部新年総会でのご挨拶の模様)が上映された。記念講演は、高知県経済界のリーダー、岡内啓明さん(42回)が「土佐の活力」と題し、ブータン王国を引き合いに、GNP(国民総生産)のパラダイムをGNH(国民総幸福量)のパラダイムに転換すれば、自ずと「ぼっちり幸せな 高知県が見えて来る」と熱く語られた。

懇親会では、87回生たちが将来の夢を記した大きな名札を首からぶら下げ、諸先輩と和やかに交流した。学生よさこい「陽」の前田春香副代表(86回)より元気な挨拶もあった。

総会・懇親会の模様は、関東支部ホームページ 新着情報(News&お知らせ) <http://www.tosako-kanto.org/>

でご覧ください。関東支部フェイสบック <http://www.facebook.com/tosako.kanto> とともに、今後も関東支部ホームページをお役立てください。新役員は次の通り。

支部長	森 郁夫(41回)	新任
幹事長	市川 直介(53回)	留任
事務局長	二宮 潔(49回)	留任
副幹事長	黄川久美子(47回)	新任
	濱田 知佐(56回)	新任
	中平公美子(59回)	新任
	宮崎 晶子(67回)	新任
	加藤 文展(76回)	新任
	長谷 至誠(76回)	新任
	澤田 千紘(78回)	留任
	幸徳 正夫(37回)	留任
	森 隆裕(59回)	留任
	川上 正衡(58回)	留任
会計監査		
常任幹事		
名簿委員長	川上 司(52回)	留任
筆山編集長	永森 裕子(44回)	新任
HP編集長	筒井 康賢(41回)	留任
総会世話役	西森 さと(57回)	留任
顧問		
	曾和 純一(16回)	留任
	宮地 貫一(21回)	留任
	泉谷 良彦(29回)	留任
	浅井 伴泰(30回)	留任
	溝淵 真清(32回)	留任
	佐々木 泰子(33回)	留任
	大石 和男(40回)	留任
	岩村 康生(41回)	留任
	鶴和 千秋(41回)	留任
	西岡 恒憲(41回)	新任
退任		
	中村 裕子(37回)	
	山淵 玲子(37回)	
	町田 憲昭(37回)	
	小松 岳志(7067637回)	

本部だより

会長

岡内紀雄(34回生)

関東支部のみなさん、お元気ですか。いつも同窓会活動にご協力いただき、ありがとうございます。おもしろいニュースを一つお伝えします。天ぶらの食材などで知られる「マアナゴ」は、漁獲量が1995年からの14年間で半減しています。仔魚は高知県で「のれそれ」と呼ばれ珍重されていることは、みなさんご承知のとおりです。マアナゴの産卵場所は分かっています。センターですが、水産総合研究センターなどのチームが今年2月、マアナゴのふ化後間もない仔魚を沖ノ鳥島の南約380キロの海域で採集することに成功。「産卵場所は周辺の海底山脈だと特定した」と発表しました。マアナゴがどこから日本に来るか判明したことで、今後の資源管理に役立つものと期待されています。

新校舎建築募金 さすが土佐高・大感激! 5年前から取りくんできました。新校舎建築募金は、今年3月末をもって終了しましたが、お陰さまで目標を上回る4億1,300万円余を集めることができました。これもひとえに関東

支部のみなさんをはじめ全国の同窓会会員、振興会、教職員、企業、団体のみなさんのご支援、ご協力の賜物と心から厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

2012 ホームカミングデー 今年度の母校で開催する全体の同窓会(ホームカミングデー)は8月18日(土)で、記念講演は、税理士の幸徳正夫さん(37回生)を予定しています。42回生の荻田雅夫さんを委員長とする、82回生までの「2の付く回」の実行委員会が企画を担当して下さい。ご期待のうえ、ご参加下さい。

日時 8月18日(土) 12時から 18時から 新阪急ホテルにて懇親会 プログラム(企画中) 現役生食堂メニュー体験 特別授業: 廣井護先生(国語) 特別座談会:「復活のマウンド 骨髄バンクドナー登録8万人運動の軌跡」依光聖一氏(42回生)、坂本隆先生(47回生)、戸田浩司氏(80回生) フォークダンス復活: 昭和44年の運動会まで続いたフォークダンスの再現 筆山ホール講演: 幸徳正夫氏(37回生)「今が旬! 師友の縁に生かされて」

支部のみなさんをはじめ全国の同窓会会員、振興会、教職員、企業、団体のみなさんのご支援、ご協力の賜物と心から厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

列島 あちら こちら から

広島支部事務局長の大谷準一です。広島支部は平成22年度より新体制となり、はや1年以上が経ちました。

昨年は新体制での初めての支部総会を10月29日の土曜日に開催いたしました。

総会後は関東支部の傍士銚太先輩(49回)に「国の成り立ちを変える～Homeのある風景～」という演題で講演をしていただき、各支部からも49回生を中心に多数のご参加を戴きました。今年は11月17日に昨年と同じく「アンデルセン」で開催いたします。

講師には、沖田支部長と同期の佐竹真一先輩(41回)をお願いしておりますので、今年も皆様のご参加をお待ちいたしております。

なお、広島支部幹事の大田潔君(60回)が7月1日付で関東に転勤になりますので、関東支部の方々よろしくお願いたします。

広島支部だより

大谷準一(51回)

桜満開の4月8日、大阪市内にて恒例の関西支部総会が開催されました。今回はいつもの支部総会と懇親会に加え、今一度地震を知る・正しく怖がろうとの狙いで、地震学者の尾池元京大総長(34回生)に「地震を知って震災に備える」と題して講演頂きました。質疑コーナーではユーモアを交えながら丁寧に回答して頂き、いつか必ず来る地震への理解を深められたかと思います。懇親会も含め、今回も大盛況のうちに終えることができました。

関西支部だより

岡田晋典(76回)

香川支部だより

安岡弘道(41回)

関東支部総会では大変お世話になりました。200人を超すスケールと中身の濃い充実した内容に圧倒されました。香川支部は七夕総会を毎年7月第1土曜日の夕方、昔懐かしい宇高連絡船棧橋跡地「サンポート高松」にて瀬戸内海に沈む夕陽を眺めながら開催しています。飲み食いだけで芸はありませんが土佐弁と同窓のよしみを確認する良い機会

北海道支部の活動は、秋の支部総会と各支部会誌への支部便りの投稿です。昨年の支部総会以降は支部便りの投稿の他には特に活動は行っておりません。今年も進学、転勤などで北海道にきた同窓生がいると思っておりますが、まだ確認できていない状態です。まずはこれらの同窓生の連絡先を把握したいと思っております。北海道にいる同窓生をご存じの場合にはご連絡を頂ければと思います。今後も北海道支部を宜しくお願致します。

北海道支部だより

山本隆昭(53回)

関東支部の皆様、ご無沙汰致しております。この度、長年関東支部の発展にご尽力されました泉谷支部長が勇退されました事、寂しさも感じますがお疲れ様でした。新たに就任された森支部長のもと、ますます発展されることを楽しみにしております。

去る5月19日の東海支部総会には、二宮事務局長、澤田副幹事長、川上会計各氏に出席していただき、大いに盛り上げていただきました。有難うございました。総会の席上で、東海支部より母校の茶道部に贈呈するお茶碗(38回の井上健郎さんと40回の近添雅行さんの作)が披露され、その見事な出来栄は後日ホームページ等でも紹介されましたのでぜひご覧ください。また、6月2

東海支部だより

村山文世(41回)

日の関東支部総会には、東海支部から瀬沼幹事および久保顧問が出席させていただき交流を深める事が出来ました。今後とも隣の支部としてよろしくお願いたします。

になっています。

香川県は「うどん県」と称して出身の俳優・タレントを起用し県産品や観光地の魅力を情報発信しています。意表をつくネーミングが受けて結構反響があるようです。また大河ドラマ「平清盛」では坂出が注目されています。悲劇の帝・崇徳上皇が流され崩御され御陵のあることでゆかりの史跡を巡るツアーが人気です。製麺所が軒先でやっている絶品のうどん屋が近くに沢山あり腹ごしらえにお誂えです。是非お出かけください。

母校だより

学校長 山本 芳夫 (40回生)

皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。いつも母校に対し格別のご支援をいただいておりますことを心から感謝申し上げます。

新校舎建築募金について

募金の最終集計額は4億1,309万円余りとなりました。5年間に亘る募金運動は、お陰様で目標額を大幅に達成し締め切ることができました。ご厚情をいただいたお一人お一人に改めて感謝申し上げます。その中で特に関東支部の多くの皆様から多額のご寄付をいただきました。母校へのご支援本当に有難うございました。

大学入試結果について

今年の大学入試を総括すると、新卒者(87回生)は東大合格者7名など所謂難関大に於いては堅調な成績を収めました。現役合格率や国公立合

格者総数などの面では前年と比べると今一步でありました。一方既卒生の頑張りも素晴らしいものがあり、国公立医・医の合格者は24名に上り、新卒者と合わせて33名という立派な成果を上げることが出来ました(下表をご参照下さい)。

なお、個別大学の状況にご関心のある方は本校のHP「進路の部屋」・「主要大学の合格者数」をご覧ください。

高校県体の成績について

5月(水泳は6月下旬予定)に開催された県体には本校から25競技に330名(男子218名、女子112名)が出場。よく健闘し以下の成績を上げました。

団体では、ハンドボールで男子(5年連続)、女子(18年ぶり)とダブル優勝に輝き、登山(4年連続)、剣道・男子(7年ぶり)も優勝。一步及

ばずバドミントン・男子が準優勝となりました。一方個人では陸上・女子で100mと女子走り幅跳び、バドミントン・男子ダブルスで優勝、陸上・女子の400m障害および1600mリレー、バドミントン・女子シングルス、自転車4km速度競争で準優勝となりました。

なお、インターハイ『北信越総体』は7月28日から新潟など4県で開催されます。母校の名誉を担っての健闘を期待しているところであります。

修学旅行について

高1生の修学旅行(東京・京都4泊5日の旅)を11月下旬に予定しております。その中で、首都圏でのコース別研修は今や土佐校ならではの貴重な社会勉強の機会となっております。今年もまた先輩各位にお手数をお掛けすることになり恐縮に存じますが、どうか宜しくお願い申し上げます。

暑さに向かう折柄皆様のご自愛の程心からお祈り申し上げます。近況報告とさせていただきます。

追悼 5月28日朝、土佐中・高等学校の第5代校長の松浦勲先生が老衰のため92歳の生涯を閉じられました。先生の生前のご遺徳を偲び、本校並びに教育界への多大なご功績に心からの敬意を表し感謝申し上げます。ご冥福をお祈りいたします。合掌(6月15日 記)

年度	23年度	24年度
現役合格率	71.7%	66.2%
難関10大学	45名(現32名)	40名(現27名)
国公立医学部[医学科]	31名(現14名)	33名(現9名)
計	76名(現46名)	73名(現36名)
国公立現役合格者	102名	89名

(注)難関10大学(旧帝大、一橋、東京工、神戸)
 本年度 東大合格者 7名(現7名)
 京大合格者 8名(現3名)

母校/同窓会本部/各支部

土佐中学・高等学校 事務局 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
 (TEL)088-833-4394 (FAX)088-833-7373 (E-mail)tosa@tosa.ed.jp (HP)http://www.tosa.ed.jp/index.html
 土佐中学・高等学校同窓会本部 会計幹事 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
 (TEL)088-833-4394 (FAX)088-833-7373 (E-mail)tosa@tosa.ed.jp (HP)http://www.tosaobog.com/
 北海道支部 事務局長 山本隆昭 〒001-0018 札幌市北区北18条西6丁目 ARTE 88-305
 (TEL)011-756-2817 (FAX)011-756-2817 (E-mail)yamat@den.hokudai.ac.jp
 東海支部 事務局長 神宮美恵子 〒468-0075 名古屋市中天白区御幸山1201 御幸山パルクマンション B-301
 (TEL)052-837-5834 (FAX)ナシ (E-mail)jjjingu-m@crux.ocn.ne.jp (HP)http://tosakotokai.web.infoseek.co.jp/
 関西支部 事務局長 原田和人 〒662-0015 西宮市甲陽園本庄町6-67-205 原田方
 (TEL)090-1073-7822 (FAX)ナシ (E-mail)harada73@hotmail.com (HP)http://www.tosa-ko.org/kansai/
 広島支部 事務局長 大谷準一 〒734-0007広島市南区皆実町6-3-26-902 (TEL)082-253-5759
 (FAX)082-254-7523 (Email)spat56z9@vesta.ocn.ne.jp (HP)http://www.geocities.jp/hiroshimashibu/
 香川支部 事務局長 武山正人(担当:大石浩)〒760-8573 高松市丸の内2番5号 四国電力(株)
 (TEL)050-8801-2720 (FAX)ナシ (E-mail)ooishi11737@yonden.co.jp
 関東支部 事務局長 二宮潔 〒100-8222千代田区丸の内2-6-1丸の内パークビルディング
 森・濱田・松本法律事務所 弁護士市川直介 気付
 (TEL)03-5223-7719 (FAX)03-5223-7619 (E-mail)naosuke.ichikawa@mhmjapan.com

お悔やみ申し上げます。

9 回 林 正海	H 24	1	14
20 回 池本秀雄	H 23	1	
21 回 岡崎正方	H 23	3	
25 回 野町 淳	H 23	12	13
27 回 山本高敬	H 24	3	
25 回 和田文雄	H 23	6	

29 回 H 香川晃一	H 23	6	19
29 回 H 竹内靖雄	H 23	8	
30 回 H 松下俊彦	H 23	6	
30 回 K 岡部妙子	H 23	9	10
(尾崎)			
31 回 H 武田 勝	H 23	1	
31 回 K 大脇恵二	H 23	3	1
32 回 S 櫻井春隆	H 23	1	31

36 回 T 安岡昌子	H 23	1	8
(吉野)			
44 回 H 太田正一	H 23	3	22
44 回 T 竹内康紀	H 23	3	
46 回 T 中村 健	H 23	5	
49 回 N 山崎文雄	H 23	9	13

(以上関東支部管内、敬称略)

母校は、私たち28回生が入学した昭和22年度から、当時の大嶋校長の勇断で、男女共学とし、入学定員も一気に二倍以上に増やした。さらに、私たちが高校に進学した昭和25年度からホーム制を導入し、担任を三年間固定することにした。

松浦先生のMホームには、国立大学への進学希望者が多く集まった。だから私たちは、「文武両道」を謳っていた土佐高の「文」の面は私たちが代表し、私たちの進学成績いかに母校の存亡がかかっていることを自覚していた。そんな生徒たちの集まったホームを担任した松浦先生への心理的重圧は、相当なものがあったと思う。しかし先生は、私たちを特に叱咤激励するわけでもなく、まったく悠々としておられた。おかげで私たちも、とてもびのびとした高校生活を送ることができた。松浦先生は、戦地での負傷の

追悼 松浦勲先生
思い出されるあの一言

公文 俊平 (28回生)

ためだったらしいが、軽く足を引かずっておられた。それもあってか、先生が廊下を走る姿など、ついぞ目にした記憶はない。なにしろどっしりしておられた。そして時に「自重しろよ」とか、「試験の前はよく寝ておく」といいうぞうだぞうなどと声をかけて下さった。その先生のとこに一度だけねじ込んだことがある。昔の話なので、それほど記憶は定かでないが、事情はこんなことだった。某先生のお宅の向かいに下宿し

ていた同級生がいた。そこへ悪童たちが集まって酒盛りをし、興に乗ったあけく屋根の上に出て騒いだ。一部始終を見ておられた某先生は、事ここにいたって許せぬと激高し、かくかくしかじかと校長に言い上げたところから事件となり、彼らの処分問題にまで話が発展した。私はそれが納得いかなかった。最初から見えていたのなら、なぜ早めに注意してくれなかったのか。それが教育者の正しいあり方というものではないのか、と松浦先生に訴えたのである。先生は私の抗議にひとしきり耳を傾けられた後、ぼつりと一言、「いか公文、善意にとるんだぞ」とおっしゃった。それだけで、後はじつと私の目を見つめておられた。私は言葉が続かず、さすがと退散した。

あの時の先生のお言葉の意味を、いまも考え続けている。

山本高敬先輩が逝去されたのは、返す返すも残念である。「高敬(こうけい)さん」と親しく呼ばせていただいていたが、かなり歳も離れていて考えてみれば恐れ多い存在であった。しかし、そんな年上の先輩との交流が20数年、たくさんあった。先輩が20数年、先輩を交えて続くはずもないので、やはり高敬さんの人柄や包容力が並はずれて素晴らしい。30年ぐらいい前のことだが、

こうけいさん(25回)を偲ぶ
中島 宏(38回生)

高敬さんのような土佐の紳士や我々のような品はないが裏表のない土佐っぽさが混在し、口から機関銃のように土佐弁が出る会は、ここだけだったような気がする。毎回プレーが終わってからのパーティが延々と続き、口が過ぎる後輩どもはずいぶんと偉そうなことも言ってきた。それを許してくる雰囲気があった。楽しかった。

もっと生きてもらいたかった。あんなにお元気だったのに。高敬さんの体調がすぐれず、

いろいろ心配をかけ、かわいがってもらったのにお礼もできぬまま逝ってしまった。あまり良い後輩でなかったことが今更悔やまれる。

散る桜 残る桜も 散る桜
高敬さん、いろいろとありがとうごさいます。

メールボックス

筆山会

ゴルフのご案内

今春は5月24日によりつりゴルフクラブにて3組12名で開催されました。33回の澤村良節氏がニアピン2個ドラゴン1個を小脇にネット74で見事23年ぶりに優勝を果たされました。ゴルフを楽しみ、反省やら近況やらの報告が尽きない楽しみと充実の一日です。次回開催予告を掲載します。

10月18日(木)場所は関東周辺で募集検討中であります。参加の希望・コースの推薦など、なんでも連絡してください。連絡先 小松三男(41回) 090-5561-7023

誇らしき婿殿

プロ登山家の竹内洋岳さんがこのほどヒマラヤの標高8167メートルのダウラギリ登頂に成功。八千メートルを超す山はエヴェレストなど14峰、この全てを制覇した人は世界で28人だけだ。竹内さんは29人目に入る快挙で、勿論日本人としては初めてのこと。

この竹内さんが実は26回生の野波博泰さんの娘婿さんとして二度びつくり。あらためておめでとくと申し上げたい。野波

「第15回はちきん会」のご案内

男性の多い土佐高の同窓会へ女性参加が増えるようにと平成8年7名から始まったこの会も、100人近い数になり、男性も大勢参加下さる楽しく、美味しく有意義な懇親会になっています。今回は小松三男さん(41回)をナイ

トに、講師には49回生の村木厚子さん(内閣府 政策統括官、元厚生労働省局長)をお迎えて開催致します。

9月15日(土)

11:30~14:30

日本プレスセンタービル
日本記者クラブ10階ホール
どなたでも歓迎ですので、是非

佐々木泰子(33回生)

さんには友人たちから祝福のメールや手紙が沢山届いていると思うが、記録より何よりも「無事」を喜んでいるのが偽らざる親心なのかもしれない。(G)

ガーナ高校生交流

今年度は東京と飯田で

ガーナよさこい支援会本年度9回目となるガーナ高校生日本研修旅行の概要が決まりました。

一行20人は8月17日に来日、麻布学園など都内高校生や、遠路参加する土佐中・高校生らと交流の後、8月26日(日)午後には原宿スパーよさこいに出場の予定です。

今年度は楽曲に伝統民族音楽(ドラム)を加え、踊り振付も一新いたします(常連の関東支部ハチキョウ組さんたち頑張ってください)。皆様のご応援をお待ちしております。

一行はこのうち長野県飯田市に移動して県立飯田高校生との交流、農家民泊、太陽光発電や地場産業見学など地方ならではの体験をします。(日程詳細はHPに掲載予定)

公文敏雄(35回生)記
ガーナよさこい支援会
代表:浅井和子(35回生)

電話(03)32334383
HP=http://www.ne.jp/asahi/ganade/yosakoi/

その節は関東支部の二宮さんを筆頭に、土佐高校同窓会の皆さんから限らないご協力とご支援をいただき、お陰様で戸田は現在高知市立春野中学校国語科教諭そして野球部監督として、高知の子どもの教育に日々邁進しております。本当にありがとうございます。

『復活のマウンド』 県出版文化賞受賞に寄せて 坂本 隆(47回生)

昨年2月2日で、戸田浩司は術後の再発なく無事まる5年を過ごすことが出来ました。この種の難病は、23年のスパンでは決して安心できないと戸田ともども自戒しておりましたので、まる5年を経て二人で皆さんに感謝の意を表す方法として、出来るだけ正確に「8万人登録運動」の記録をまとめご支援いただいた方々へその経過と現在の戸田浩司の様子・将来への決意を記して読んでいただくことと決め、当初は自費出版でもと考えていましたが、幸いなことに38回生の椋垣典男さんの応援のお蔭さ

まで、高知新聞企業出版調査部から刊行していただくことができました。

また、素人二人の記した拙著が思いがけなくこのたび受賞という榮譽に浴して、多くの皆さんに改めてお礼を申し上げたいと存じます。

授賞式には、拙著に推薦の言葉を書いていただいた高知県骨髄移植推進協議会会長の依光聖一先生(42回生)も戸田のご両親とともにご出席いただき、四十万町招待野球試合のため出席できなかった戸田本人にかわって私が代表し、受賞の榮譽をいただきました。

私たちの「復活のマウンド」が、現在も病氣と闘い苦しい闘病生活を送っておられる患者さんたちとご家族、そして多くのご支援者の方々へのささやかなエールとなれば幸いです。

結びに、思いもよらずの受賞にもなう副賞を高知県骨髄移植推進協議会に全てご寄付させていただいたことをご報告して、土佐高同窓会の皆さまへの感謝のご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございます。

坂本 隆

負けてたまるか！

すい臓癌との闘い

27回生 秋田 清夫

パソコン、音楽、電話など七つの業界に驚異の新デジタルライフスタイルを作り上げ、この業界における二十一世紀の革命児といわれたアップル社の創業者の一人スティーブ・ジョブズ氏が昨年十月六日その波乱に富んだ五十六歳の生涯を閉じた。その死因は膵臓癌であった。私はこのスチーブ・ジョブズが何者かを知ったのは、彼の死の直後テレビや新聞等マスコミによってであり、さらにその後、昨年最も売れた本と云われる彼の伝記を読んで、不可能と思われることを、是が非でも可能にしないではおかないという情熱・執念、その実行力、その凄さに脱帽した。

あのジョブズと同じ病
実は私は、彼の死の十日前、まさに膵臓癌と闘って、自宅のある東京都小平市内の公立昭和病院で、その手術を受け無事に終っていたのであり、このジョ

ブズでも膵臓癌には勝てなかったことを知って感慨一入であった。特に、ちょうど同じ頃毎週木曜日テレビ朝日の番組で、沢村一樹主演の「ドクターズ最強の名医」というシリーズを放映



しており、そのドラマで膵臓癌手術を内容とするものもあつたので、尚更胸に響いた。

早期発見難しい場所
とこころで癌は、我が国病死の

三大死因の一つと云われているが、癌のうちで膵臓癌は、膵臓のある場所が胃の裏側にあつて隠れていることや自覚症状が判然としにくいことなどから、早期発見が難しく、発見された時は手遅れということが多いよう

で、膵臓癌で亡くなった私の先輩、友人、知人、先輩の奥様等数人もすべて手遅れによる死だった。これから見ても私は誠に僥倖に恵まれたと云える。

一昨年（平成二三年）の三月私は、昭和病院で膵管拡張、慢性膵炎と診断され、膵臓癌になる虞なしとしないとのことで、以後三か月に一回精密検査を続けたが、翌二三年の六月の検査時、腫瘍マーカーが急昇していることが分かった。二回目、三回目とも腫瘍マーカーは上昇しっぱなしであり、その間、胃カメラによる胃癌、大腸癌、肺癌等種々の検査を受けたものの、これらには異常は見られないので、最終的に所沢PET/CT画像診断クリニックでPET/CTによる高度ガン検診を受けた。その結果異常が見られ、九月十一日昭和病院で、これまでの種々の検査、診察経過等から見て、初期の膵臓癌（膵頭癌）に間違いなしとの診断を下され、同月二十二日同病院に入院し、四日後の同月二十六日手術を受けた。

七時間半の手術の末に膵臓の半分と膵臓にくっついており一緒に切り取らざるを得ないという十二指腸全部、胃の半分および胆嚢、胆管の切除等のため約六時間かかることだったが、一時間半延びて約七

時間半を要した。それは、開腹してみると既に門脈への軽度の癌浸潤が始まっていることが分かり、門脈合併切除等も必要だったからとのことだった。

手術は朝九時頃から始まり、終わったのは午後四時半頃だったとのことであり、私が麻酔から覚めたのは午後五時頃であった。しかし、翌日には独りで立って歩いて便所にも行くことができ、三日くらい後には点滴のほかに重湯、その後三分粥、五分粥普通食と、一時吐き気を催し食欲が無くなった日もあつたものの、概ね順調に進み、術後十八日後の十月十四日退院することができた。

戦いは終わっていない
今は、体重こそ手術前より一〇〜一キログラム減つてはいるものの、五六から五七キログラムで、私にとってはほぼ標準であつて、食欲もあり、体調はよい。

ただ主治医から「ガン細胞は全て切り取つたつもりだが、体のどこかに潜んでないとは言えないし、再発予防ということもあり、軽い抗癌剤投与を勧めたい」とのことであつたのでお願いし、外来で十一月二十四日から二週間に一回の割で約六カ月受けることになり、これを続行しているが、三回目くらいまで

は投与の翌日と翌々日、更にその翌日くらいの一日半ないし三日くらいの間はムカムカし、食欲が減退するものの、その後は回復したのに、四回目くらいになつてから、三日くらいのムカムカ力、食欲減退に止まらず、これが五日くらいに及び、しかも味覚障害も出てきたので、主治医に話し副作用予防薬をもらつて飲むと間もなく良くなり、その後は重い他の副作用も出ていない。主治医も「軽い抗癌剤投与だから脱毛等の重篤な副作用は出ないだろう」と言ってくれている。しかしこの膵臓癌、いや癌との闘いはまだ終わつたわけではなく、これからも続くと思うが、絶対に負けてはならないと思つている。

今後は、できる限り煩わしい仕事から離れて、悠々自適の生活を送るつもりでいる。

おかししい時すぐ病院へ
とこころで年を取つてくると、身体的故障がどこか出てくるものである。身体的におかしいと感ずるところがあれば、少々多忙であつても、厭わずに医師の診察を受けるように心がけ、そのためにも常日頃から良い医師、良い病院を見つけておくことが肝要であると思う。

平成二四年一月十五日 記

本郷太栄館で修学旅行の夜を懐かしむ会

42年前の 修学旅行を再現 47回生



懐かしの太栄館前で再会した50名の旧友たち。この後、宴は土佐流で朝まで続いた



左から渡邊(濱田)晴子、北村(都築)恵美子、森裕司、森岡(浜崎)京子の各氏 = 昭和45年5月12日



筆者2氏と今回の女子実行委員たち

1970年は大阪万博が開催され世界中から多くの入場者を迎えました。その年の5月、高校2年生の我々47回生は混乱

の関西を避け、静岡から信州を抜けて関東に至るルートの修学旅行に旅立ち、最終地の東京では本郷の太栄館という旅館に投宿しました。

宿しました。

「就寝後枕を投げ合ったりマジックでいたずらしないこと」等書かれた旅の菜の復刻版を手に、出席点呼で始まった2時間の懇親会食はアツという間に終了。その後、別室に移動しての二次会は朝まで宴会可ということで、高知から取り寄せた竹輪やかまぼこをつまみに空が明るくなるまで当時の思い出や近況を語り合い、1970年の初夏にタイムスリップするという夢物語を実現したのでした。

47回生

森 裕司

森岡(浜崎)京子

季節のふるさとの味
土佐酒蔵

銀座7-1-2-4 五野本社ビル1F
電話03-3538-3856 前橋第一ホテル通り

おきやく
TOSAKI DINING
一般社団法人
高知県物産振興公社

プロデュース: 森岡 京子 (56回生)
アシスタント: 西森 咲 (82回生)
アシスタント: 高木 一歩 (85回生)

www.marugotokochi.com/
Tel 03-3538-4351 (予約・問い合わせ)
〒104-0064 東京都中央区銀座1-3-13

昨年12月3日(土)、第4回『学生・若手社会人交流会』が東大駒場キャンパスにて開催された。大先輩からのメッセージに熱心に聞き入る関係在参加者は今回もほぼ満員御礼に近い90人上った。これから社会人となる学生、そしてさらなる活躍を目指す若手社会人にとって、高校の大先輩という身近な存在でありながら各界でのトップリーダーでもある講演者のお話を、土佐弁を交えながらじっくり聞ける機会は貴重で、土佐高校生以外からは羨まれる会ではないだろうか。

上田 真路(76回生)

三人のパネラーが持論展開

この交流会は第1回に尾崎正直高知県知事、第2回に森郁夫富士重工(株)代表取締役社長(現会長)、第3回に元ルイ・ヴィトンジャパン(株)代表取締役社長の秦郷次郎さんをそれぞれ講師としてお迎えした。

各回、それぞれの基調講演者のバックグラウンドによるテーマのもと、「高知県論」や「海外キャリア論」そして「ブランド論」と続き、今回のテーマは「人材論」についてその道の先輩をお招きして『これからの国際社会で必要とされる人材とは』をタイトルにパネルディスカッション形式での会となった。パネラーの一人目は小串記代さん(49回生)。小串さんの経歴はとにかく幅広い。津田塾大学国際関係学科と国際大学MBAを修了後、1978年高知新聞社編集局学芸部入社、

英国留学を経て1983年高知大学教育学部非常勤講師。1984年川崎重工業入社、秘書室での経歴ののち、アセスメントを中心とした人事・教育コンサルティング会社を経て、富士ゼロックス総合教育研究所入社。現在は取締役コンサルティング統括部長のお立場で多岐にわたるコンサルティングを行われている。

そんな小串さんの子供の頃の夢は「お嫁さんになること」。意外ではあるが土佐高校時代はやりたいことが決まっていたわけではないと言う。ただ土佐高校ならではの男女の差がない環境で育つたため、大学でジェンダー論や社会学に没頭され、その後のキャリアにおいて男女を意識するのではなく、自らのジェンダーを活かしながらのキャリア形成をしてこられたとのお話を聞いた。

話を聞いた。小串さんが、これからのグローバル人材たらんとする若手に伝えたいメッセージは「論理性は万国共通」、「コミュニケーション力」、「概念化」そして「多様性を理解する」というものだった。

また国際社会で自分の中に確固たる核を持つために「夏みかん」ではなく「桃」であるべきとのこと。果肉、つまり人当たりはフレンドリーで柔らかいが、中には固い種がある人材、夏みかんはその逆という喻え。幅広い分野でのキャリアと人材交流を実践してこられた小串さんだからその響くキーワードを聞いた。

学生・若手社会人交流会 in 2011 今年も冬に開催予定



パネラーの二人目は野中聖仁さん(58回生)。早稲田理工学部を卒業後、1987年4月三菱商事に入社。アメリカでの駐在経験を経て化学品の海外企業とのトレーディングに

始まり、南米・東南アジアでのバイオ燃料製造事業への海外投資に従事され、現在は新エネルギー・電力事業の買収・運営を

統括されている。

風貌、発言ともにエネルギーシユな野中さん、中学までを愛宕中学で過ごし土佐高校を経て大学へ。大学時代は大学そつちのけでアルバイトやビジネスに没頭し当時の新卒の給料の倍は稼いでいたという。自由奔放に生きてきた経験から強く発するメッセージは「人間力を高める」、「人を感化する力をつける」。身近で笑いを誘う経験談から人間力の話題へと繋げる話術は会場を笑いの渦と納得の底に誘いこむ。まさに「人を感化する力」をその場で証明する姿から若手参加者も多くを受け取ったに違いない。

野中さんが強調するグローバルな人材に必要なスキルとは「ディベートができること」、「外国人が理解できる振舞い(behavior)」、「英語力(土佐弁まじりでもかまんき!)」だ。己の人間力を表現するためのスキルとっていいだろう。では人間力を磨くには?という会場からの質問には、「挫折」成功のチャンス」と答える野中さん。ご自身の紙面上では書けない強烈な失敗談の数々と、そこから得たものを語ってくれた。最後のパネラーは澤田千紘さん(78回生)。東京学芸大学教育学部を卒業後、2000

7年に組織人事コンサルタント
グ会社の㈱マングローブに入社
さまざまな規模、業種の企業の
教育研修事業コンサルを手がけ
てきた。現在は持ち前の積極性
と先見性を活かして水環境分野
のベンチャー企業、㈱オアシス
ソリューションに移られ、企業
の採用教育担当として日夜業務

土佐人の血潮熱く 筆山会新年会

幸徳 正夫 (37回生)

筆山会の新年会が「湧くから
に流るるからに春の水」(漱石)
の一句が浮かぶ穏やかな新春1
月7日、明治神宮周辺の代々木
倶楽部で正午より開かれた。
西内幹事(30回)の司会、
森会長(23回)の挨拶で始まっ
た。会長は、多数の参加を頂い
たことに謝意を述べ、この筆山
会が土佐中・高等学校をサポー

に取り組んでおられる。
時代を敏感に感じている澤田
さんは「20世紀は正解のある
時代、21世紀は納得解を探す
時代」と語る。多様な時代だか
らこそさまざまな世代、人材と
学生時代から交流し、得た考え
を糧に自分の中に納得解を持っ
て面接に挑んでこない人材はリ



クルートでも差が出るとのこと。
若手、学生にとっては身近に感
じられ、襟も正される力強いメッ
セージをいただいた。
モデレーターを勤めた北村悠
夏さん(83回生)も、201
2年春から社会人という立場か
ら会場を代表しての質問を三者
に投げかけ、それぞれのパーソ
ナリティを徹底的に引き出した
腕前は早くも「人間力」マスタ
ーの片鱗をみせ、土佐高校生が古
今ともに人間力をしっかりと醸
成していることを証明している。
グローバルに活躍するリーダー
が、土佐というローカルな地か
ら途切れることなく脈々と輩出
されている事実。そして雲の上

トする集いの場となることを願
い、何事にも自分をもって、自
分を高め日本をも高めていく元
年としたいと、昨年の東日本大
震災からの我が国の復興を念頭
に置かれた格調高い挨拶があり
今年も明るく乗り切りましょ
うと結ばれた。
続いて、一番若い21回生の
宮地顧問が若々しい声で、益々
お元気で我が土佐高と我が日本
のために乾杯！のご発声のもと
杯を捧げた。会場はいい雰囲気
を醸し、料理も新春にふさわし
く彩りよし盛り付けよし味よし
で、勢いよと雖もつい酒量が増
えたのは土佐人の血が騒いだ
のであろう。
会場には関東支部総会第1回
(85年)と第6回(91年)の
模様をダイジェスト版で放映さ
れた。これは浅井さん(30回)
が保存のビデオを山中さん
(24回)がダイジェスト版に
編集されたものである。また、

向陽新聞のスライドも岡林さん
(40回)が映し「向陽新聞パツ
クナンバーCD」頒布の紹介が
あり、編集委員の森田さん
(37回)から欠落号数につい
て協力の依頼があった。
母校の歴史を時系列的に編集
しようとされる編集委員長の中
城さん(30回)たち編集委員
のご苦労には敬服の一言あるの
み。

関東支部事務局長の二宮さん
(49回)からは天下の青森山
田とのサッカーの試合の応援の
お礼と2月18日の幹事会の連
絡等があった。サッカーの応援
については公務多忙な中谷さん
(51回)も恒例の正月帰省を
取り止めて、家族で熱烈応援で
あったとは会場の声である。
同窓会関東支部長の泉谷さん
(29回)は体調が今一つ万全
でない中を出席され、多くの同
窓生から挨拶を受けられていた
光景が臉に残る。このほか、は

の人ではなく、「敬愛する土佐高
校の大先輩」なのだ。筆者、在
京の友人からはNEWSWORK
WORKと少々羨望とともに
語り草となっている。是非、こ
のNEWSWORKが若手の「人
間力向上」に役立ち、次世代の
グローバルなトップリーダー育
成に役立つことを期待したい。

ちきん会は佐々木さん(33回)
が、ハイクの会の中島さん
(38回)から案内があり、中
村さん(37回)も訪れたガイ
ナよさこいについて報告され
た。席上、私が一番印象深く残った
言葉は「とうとう僕が名簿の一
番上になったよ」と闊達な笑顔
で話しながら会場に見えた宮地
先輩の一言である。出席者全員
がその言葉をいつの年にか我が
口から発したいと思ったのでは
ないか。
ききぬ話も会場の時間制限に
は勝てず、宴たけなわのうちに
校歌大合唱でお開きとなった。
なんと、西内幹事は会場をセッ
トしてくれた浜田さん(37回)
とともに来年の新年会の会場予
約をして帰られたとのこと。土
佐中・高等学校筆山会は揺ぎな
しを確信。出席者各位はお互い
に来年の再会を約しながら、暮
れなすむ街の中に溶け込んでい
た。



昭和33年4月、病床にあつた第三代大嶋光次校長が永眠された。享年六八歳。向陽新聞は号外を発行してこれを報じた。空襲で灰燼に歸した母校を再建、四国屈指の進学校に育てるなど教育界における長年の功勞に対して藍綬褒章を受章されたばかりのことであり、創立四〇周年を迎えようとしていた矢先の悲報であつた。

当時の土佐中高は、往時の少数英才教育から一クラス六〇人・一学年三百人を超す多数教育の機関に変貌して様々な問題を抱え込んでおり、後を継いだ曾我部清澄校長（本校一回生、高知大学教授）による改革に期待がかけられた。

ゆるみの症状

大嶋校長時代最後の校風はどのようであつたか。すこし遡つて昭和32年の向陽新聞を見て

みよう。

大嶋校長の逝去を報じる向陽新聞号外（昭和33年4月）



2月発行の第35号に「修学旅行その後の問題」という特集が組まれている。前年秋の高校旅行が「大さわぎの修学旅行 女生徒も酔っぱらう」と報道されて（31年12月発行第34号）大きな波紋を呼んだことへの反

噴出した“ゆるみ” 少数英才から大量教育の時代へ

省から、「そもそも遊びか教育か？目的の明確化を」（河野伴香先生）という根源問題の提起がなされた。しかも、翌32年秋の旅行では不参加者が一〇六人にのぼり、旅行の何たるかが改めて問い直されることとなつた（32年12月発行第39号）。

存在意義が揺らいだのは旅行だけではない。自治の象徴ともいえる生徒委員会活動が、一般生徒の無関心風潮から沈滞に陥り、定数未達による流会や役員

の辞意表明、一時は組織解散動議まで出るありさまであつた。大嶋校長が生徒の「自主性」と「総親和」を願つて制度化した毎週水曜5時間目のホームルームも、自習や下校が常態化して名のみであつた。

信じ難いことだが、暴力・ゆすり・盗み・カンニング等が続発し（いわゆる不良化問題）、退学を含む厳しい処分が31年9月発行の第33号はじめ折々の紙面で報じられて、「ゆるみ」の根深さを物語っている。ちなみに、当時全校生徒に配られた「生徒必携」には、重点目標として一、総親和 二、学習態度の強化確立 三、学問とスポー

ツの両立強化 四、不良行為の排除撲滅 五、六・三・三・四の徹底 が掲げられていた。校風刷新に向けて

危惧の声の拡がりを受けて、33年2月発行の本紙40号は「本校はこれでよいのか？」というテーマで、教頭（校長は病臥）、生徒有志、卒業生など二十余名による大討論会を企画している。

不良化防止のためとして校長が発した長髪禁止令に意味があるのか？ 生徒・先生・父兄の間に壁があるのでは？ 先生の姿勢や資質も問うべきではないか？ 受験競争下で学問とスポーツの両立が可能なのか？等々、寄稿も含めて多くの論点・提言が紹介されたが、改善に着手する間もなく大嶋校長の訃報となつた。

海の向こうへ 一方、「中谷さん（高二）アメリカへ 本県初のAFS留学生に」の快挙（33年7月第42号）、「日本人としての誇りを持つて」渡航した彼女からの「アメリカ便り」（同10月第43号）、吉川美雄先輩「読売新聞記者による「アメリカ高校生生活報告」（34年5月第45号）

向陽新聞に見る土佐中高の歩み
大嶋校長から曾我部校長へ（昭和32～34年）



などの報道は、生徒の視野を拡げてくれた。当時の本校英語教育は発音を重視（中沢節子先生）したほか、「講義の半分を英語」や、「昼休みにヒヤリングの練習」（平林泰人先生）など実践力養成が試行されていた（33年2月第40号）。（作家小田実が「何でも見てやろう」の旅に出たのはこの頃である）

曾我部新校長

本校創立時代を知る第一回生の曾我部新校長が熱い期待を担って登場した33年10月と翌34年2月および5月の向陽新聞（43・44・45号）は、連載企画「大嶋校長と本校の歩み」によって戦災からの復興に始まる本校変遷の歴史を振り返るとともに、新校長の人物と抱負とを

曾我部新校長の就任を報じる向陽新聞第44号（昭和34年2月）

特集で大きく取り上げた。曾我部校長は紙上で「点数をとることが人生の目的ではない。大学さえも目的ではない」として受験予備校化をきっぱり否定。「生徒・先生のすべてが親友」となって協力しあい、みんなが楽しくスポーツをし、暴力・盗難など断じてない「よりよい学園」を作り上げる夢を語っている。

新時代を祝うかのように、34年明けの受験戦線では長髪（注）の現役が大健闘（合格率71%）、東大・徳島大・広島大・早慶・エicuなどの合格者が過去最高を更新した。春には

6千坪の新グラウンドが完成、旧運動場が一般生徒に開放されることとなった。

（注：不良化防止のためとして出されていた「長髪禁止令」は新校長就任早々公式に廃された）

34年11月、創立四〇周年を迎えて式典や多彩な記念行事が華々しく行われる中で、「本校はどうあるべきか」の議論が盛り上がりつついく。

（次号）に続く

あとがき

32年2月の第35号掲載記事「中学受験調査結果とまる」によれば、「よい学校に入るため」とほぼ並んで「立派な人間になるため」が本校志望理由第二位に入っていた。

「中堅国民ノ養成ハ論ヲ待タズ」進ンデ上級学校ニ向カヒ他日国家ノ翹望スル人材ノ輩出ヲ期スル」（本校設立趣意書）という伝統を、読まずとも感じ得ていたようである。

この目的を達成するための教育方針や具体的施策が創立期の学校要覧では教授心得の形で体系的に明示されていたが、かかる肝心のことすら風化して久しい。

会報「筆山」のこと

前編集担当
西岡恒憲（41回）



98年冬号の筆山25号から11年夏号の50号まで13年の間「筆山」の編集作業を担当させていただきました。

11年冬の51号編集会議の前にやむを得ぬ家庭の事情で編集作業ができなくなり、その後も復帰が難しい状況のため、これを機会に、若返りを図るべきだと思ひ、このことをベテラン編集

委員に申し出ると、快く承知していただき、後任の編集長まで探していただきました。

既刊の半分に当たる26号分を担当したのですが、さまざまなお思い出ができました。全く取り柄のない人生を送ってきた私ですが、この筆山編集作業だけは、私の人生で唯一、人様に少しだけ喜ばれた事柄ではないかと思っています。

新しい編集長の永森裕子女士は、年齢不詳なのですが、ニツクネームが「童女」と呼ばれるほど若々しい方ですので、私も陰ながら応援していきたいと思っています。

新旧編集長からのメッセージ

新任挨拶

永森裕子（44回）



突然の西岡名編集長の引退、今後の筆山についての話し合いの席に招集令状がかりました。その席で、編集長を、と言われま

したが最初は固辞しました。土佐中・高時代は、中一から高三まで新聞部に所属していました。部長や編集長は同期の男子達で担当、私は記事を書く以外は、部室でふわりふわりとしていた身、編集のなんたるかがわ

かっています。「筆山」の編集委員をおおせつかつている今も同じ状態です。しかし、「筆山休刊やむなし」との声も上る中、一度休刊すると再発行が困難なのは、母校の向陽新聞で経験済み、思わす、「二年間なら」と引き受けていました。二年後には、本拠地を高知に移す予定です。それまでに後任の若い編集長を探して、バトンタッチをするのも私の役目と心得ています。古い校舎、玄關脇のメタセコイアの木、その前にあった新聞部室、あの頃（写真）を思い出して、頑張りたいと思います。よろしくお願致します。

書籍

公文俊平(28回)社会システム理論2011.11 ¥2,520 慶應義塾大学出版会
 倉橋由美子(29回)完本 酔郷譚 2012.5 ¥1,050 河出書房新社 精選女性随筆集:倉橋由美子 2012.4 ¥1,890 文藝春秋 田島征三(34回)ぼくのかえがきこえますか(日・中・韓平和絵本)2012.6 ¥1,733 童心社
 きむらゆづいちおはなしのへや3 2012.3 ¥1,260 ポプラ社 かまきりのカマーくんといふこのオヤツちゃん どうだ!まいったか 2012.2 ¥1,470 大日本図書 大橋一章(36回)興福寺 美術史研究のあゆみ 2011.11 ¥2,625 里文出版 塩田潮(40回)日本の内閣総理大臣事典 2011.11 ¥1,890 辰巳出版 西村繁男(40回)おーなみ こなみ ざぶん! 2012.6 ¥1,365 佼成出版社 ようちえんがばけますよ 2012.3 ¥1,260 くもん出版 うつぼざる 2011.11 ¥1,260 講談社 黒鉄ヒロシ(41回)新・信長記 2012.5 ¥1,260 PHP研究所 千坂万考天の巻 2012.4 ¥1,575 幻冬舎 坂村真民 念ずれば花ひらく 2012.3 ¥500 えひめりびんぐ新聞社 高山宏(42回)「こころ」とのつきあひ方 13歳からの大学授業(桐光学園特別授業) 桐光学園中学校・高等学校 2012.4 ¥1,680 水曜社 夢十夜を十夜で 2011.12 ¥1,365 羽鳥書店 新人文感覚 2 2011.11 ¥13,650 羽鳥書店 加賀野井秀一(44回) 獺博物館へようこそ-西洋近代知の暗部をめぐる旅 2011.12 ¥2,520 白水社 村木厚子(49回生)「あきらめない」2011.11 ¥1470 日経B P社 坂東眞砂子(51回)朱鳥の陵 2012.3 ¥1,890 集英社 恍惚 2011.11 ¥580 角川書店 欲情 2011.11 ¥660 講談社 須藤清(52回)三日月とクロワッサン 2012.2 ¥1,575 毎日新聞社 森岡正博(52回) 救いとは何か 2012.3 ¥1,575 筑摩書房 生者と死者をつなぐ 2012.2 ¥1,680 春秋社 門脇護(53回)(ペンネーム 門田隆将)太平洋戦争 最後の証言 第三部 大和沈没編 2012.4 ¥1,785 小学館 太平洋戦争最後の証言 第二部 陸軍玉砕編 2011.12 ¥1,785 小学館 英保未来(54回)(ペンネーム 大森望) 拡張幻想 2012.6 ¥1,365 東京創元社 原色の想像力 2 2012.3 ¥1,029 東京創元社 NOVA 7 2012.3 ¥998 河出書房新社 吸血鬼が祈った日 2012.1 ¥480 集英社 21世紀SF1000 2011.12 ¥1,155 早川書房 NOVA 6 2011.11 ¥998 河出書房新社 NOVA 5 2011.8 ¥998 河出書房新社 森岡浩(55回) 名字で読む歴史・時代小説 2012.3 ¥1,470 東京書籍 名字の謎 2011.12 ¥903 筑摩書房 廣瀬裕子(60回)(ペンネーム 高遠裕子) 未来を発明するためにいふこと スタンフォード大学 集中講義II 2012.5 ¥1,470 阪急コミュニケーションズ

田島征三(34回)「こやぎがびよんびよん」こどものとも。(202):2012.1
 尾池和夫(34回)「東日本の巨大地震に学ぶ(5・最終回)東日本の巨大地震に学ぶ」Atomo :journal of the Atomic Energy Society of Japan. 54(2):2012.2 「東日本の巨大地震に学ぶ(4)2011年東北地方太平洋沖地震」Atomo :journal of the Atomic Energy Society of Japan. 54(1):2012.1 「歴史の思考実験」文芸春秋. 90(1):2012.1 大橋一章(36回)「平城遷都期における造仏工・造寺工の系譜」奈良美術研究. (13):2012 野田正彰(37回)「私たちは東日本大震災をどのように体験したか 特集 震災・復興」家計経済研究. (93):2012. Win 柿田睦夫(38回)「オウム裁判」終結:検証すべき二つの視点」前衛. (880):2012.3 塩田潮(40回)「FOCUS政治 首長・幹事長の微妙な関係 消費増税法は暗礁に カギ握る幹事長の対応」週刊東洋経済. (6395):2012.6.2 「FOCUS政治 解散権を縛る「一票の格差」「無力政治」克服のために 選挙制度改革に本腰を」週刊東洋経済. (6387):2012.4.21 「Books & Trends イギリス 矛盾の力: 進化した続ける政治経済システム」週刊東洋経済. (6385):2012.4.7 「そのとき首相は: 非常事態とリーダーシップ(第10回)「悪魔の連鎖」を想定 積極介入を決めたオバマと「FOCUS政治 維新の会の勢いにまれ自民党も存亡の瀬戸際」週刊東洋経済. (6381):2012.3.17 「FOCUS政治 現実直視の責任政治で代議制民主主義の再生を」週刊東洋経済. (6374):2012.2.11 「FOCUS政治 野田政権の12年度の課題 全体像を提示して増税一本やりから脱却を」週刊東洋経済. (6368):2012.1.7 「権力欲に囚われ続けた菅直人」ニューリーダー. 25(6):2012.6 「そのとき首相は: 非常事態とリーダーシップ(第9回) 最優先事項は政権維持 全体像を見失った陣頭指揮 怒声と共に溶融した菅政権」ニューリーダー. 25(5):2012.5 「緊急対談 官僚が握る隠し資金 なぜ特別会計「埋蔵金」一〇〇兆円は活かされないのか」ニューリーダー. 25(4):2012.4 「そのとき首相は: 非常事態とリーダーシップ(第8回)9.11に遭遇した小泉政権 動物的政治勘で対米協力 テロ対策も人気維持装置」ニューリーダー. 25(4):2012.4 「そのとき首相は: 非常事態とリーダーシップ(第7回)目立ちたがり屋が祟る 金融危機に露んだ行方 歴史に刻まれた橋本不況」ニューリーダー. 25(3):2012.3 「そのとき首相は: 非常事態とリーダーシップ(第6回)95年「阪神大震災」発生 いま再評価される村山富市 剛腹の裏に薄い権力欲」ニューリーダー. 25(2):2012.2 「スペシャルインタビュー 熊谷弘 野田首相を知る元民党実力者が語る 激動の世界情勢と日本政治の課題」ニューリーダー. 25(1):2012.1 「野田政権は「増税のカベ」に勝てるか ビジネススクール流知的武装講座(289)」プレジデント. 50(8):2012.4.2 西村繁男(40回)「ターくんのちいさないけ」かがくのとも. (519):2012.6

黒鉄ヒロシ(41回) 「歴史邂逅インタビュー(25)漫画家 黒鉄ヒロシさん」歴史読本. 57(1):2012.1 杉山雄一(41回)「臨床研究のススム(9)マイクロドーズ臨床試験を活用した革新的創薬技術の開発: 我が国の経歴」最新医学. 67(1):2012.1 高山宏(42回)「Contradictionary 特集 辞書の世界」ユリイカ. 44(3):2012.3 宮岡等(49回)「治療 患者本位が求められる INTERVIEW」週刊東洋経済. (6397):2012.6.16 「プライマリケアにおける向精神薬の選択」日本臨床. 70(1):2012.1 阿部知暁(51回)「ゴリラが胸をたたくわけ」たたくさんのふしぎ. (325):2012.4 「ぼくらは「ごりら」ちいさなかがくのとも. (通号 114) 2011.9 坂東眞砂子(51回)「除染が進んでも価値観は粉碎された! 坂東眞砂子 怒りの寄稿 福島第一原発事故、一年後」サンデー毎日. 91(15):2012.4.1 門脇護(53回)(ペンネーム 門田隆将)「「真実の戦場」を再現する三部作 太平洋戦争最後の証言 ついに完結! ああ、大和沈没: 迫真ノンフィクション」週刊ポスト. 44(19):2012.5.4/11 「台湾深層レポート 野田官邸はアジア安全保障政策の見直しを迫られる 台湾総統選「馬英九圧勝」で進行する「中台統一」と日本の危機」週刊ポスト. 44(5):2012.2.3 「特別対談120分 気鋭の小説家とノンフィクション作家が「太平洋戦争」を語り合った 百田尚樹「永遠の0」VS 門田隆将「太平洋戦争 最後の証言」真珠湾攻撃から70年: 零戦の勇士たちの「最後のメッセージ」週刊ポスト. 43(50):2011.12.16 「真珠湾70年特別読物 彼らは何のために突撃を繰り返したのだらうか 太平洋戦争最後の証言 陸軍玉砕編」週刊ポスト. 44(2):2012.1.1/6 「光市母子殺害事件 最高裁判決 拘置所のみで犯人Fが語った」Will. (88):2012.4 「太平洋戦争 最後の証言」真珠湾70周年 老兵たちは何を伝えたかったのか」Will. (85):2012.1 英保未来(54回)(ペンネーム 大森望) 「作品評 ほぼ完璧な仕上げ! 現代のSFエンタテインメントとして甦った古典」キネマ旬報. (1608):2012.4. 下旬 「大森望の新SF観光局(第28回) ちょうたちの時間」SFマガジン. 53(4):2012.4 「大森望の新SF観光局(第27回)「ハヤカワ・SF・シリーズ」温故知新」SFマガジン. 53(2):2012.2 「大森望の新SF観光局(第26回)わが尿管の内なる声: あるいは、GALAXY TabとiPhone4Sの日々」SFマガジン. 53(1):2012.1 「小川-水インタビュー」SFマガジン. 53(1):2012.1 「BOOK GUIDE 「知の巨人」を知るには、ここから読もう!」文蔵. 74:2011.12 「書評家対談 風間賢二×大森望」第18回日本ホラー小説大賞 受賞作を語る」本の旅人. 17(11):2011.11 森岡浩(55回)「室井滋のオトナ大学 わくわく学部(Lecture29)その数10万種! 珍しい人も平凡な人も日本の名字、大集合」婦人公論. 97(1):2011.12.22

雑誌